環境パフォーマンス

■ 環境保全活動の目標および実績の一覧<国内>

※テクノアソシエとトーブツテクノ（株）（常吉事業所および八尾事業所）の合算

環境側面		2023年度 実績	2024年度 目標	2024年度 実績	増減率	自己評価 ※4	2025年度 目標
環境配慮型製品・部品の販売拡大		138.4億円（売上高占有率 24.0%）	売上高占有率 25% 以上	142.2億円（売上高占有率24.4%）	3.8億円増（売上高占有率0.4% 増）	😐	売上高占有率 25% 以上
CO_2排出量※1（原単位：売上1億当たりのCO_2排出量）		1243.3t（原単位：2.11t/億円）	原単位 2.05以下	832.0t（原単位：1.39t/億円）	33.1% 減（原単位0.72ポイント改善）	🙂	原単位1.74以下
内訳	電気※2	1061.0t		664.0t	37.4% 減		
	ガソリン・軽油※3	144.4t		134.3t	7.0% 減		
	灯油・ガス	37.9t		33.7t	11.1% 減		
廃棄物埋立て率（廃棄物リサイクル化推進）		1.10%	埋立て率1.0% 以下	1.20%	0.1ポイント増	😣	埋立て率1.0% 以下

※1 CO_2排出量の算出係数は環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方式ガイドライン試案 Ver1.6」によるものです。
※2 ここでの電気とは電力会社からの購入電力です。
※3 ガソリンと軽油は社有車に使用したもので、運送業者に委託した配送による使用量は含みません。
※4 自己評価の基準

🙂＝目標達成　　😐＝目標未達成であるが昨年度より良化
😣＝目標未達成かつ昨年度より悪化

■ 2024年度国内子会社の環境負荷

拠点	CO_2排出量	電力	ガソリン	廃棄物	水
	単位:ton	単位:MWh	単位:kL	単位:ton	単位:ton
テクノアソシエ	699.2	2,474.6	55.8	228.5	11.6
トーブツテクノ（株）	132.9	346.7	0.8	13.7	0.4
ツカサ産業（株）	97.7	181.4	1.3	15.7	670.0
（株）シリコーンテクノ	361.4	942	2.3	27.1	696.0
合計	1,291.2	3,944.5	60.2	285.0	1,378.0

2024年度海外子会社の環境負荷

地域	拠点	CO_2排出量	電力	ガソリン	廃棄物	水
		単位:ton	単位:MWh	単位:kL	単位:ton	単位:ton
東アジア	台湾科友貿易(股)有限公司	13.6	24.7	1.4	–	343.0
	科友(香港)有限公司	9.2	15.6	–	0.2	–
	科友貿易(広州)有限公司	51.6	87.6	17.5	8.4	711.0
	科友貿易(上海)有限公司	71.3	120.9	20.1	–	–
	＊ 日星金属制品(上海)有限公司	2,834.3	4,812.1	11.3	33.1	8,993.0
	＊ 嘉善科友盛科技有限公司	3,293.0	5,590.8	23.7	219.9	4,950.0
	科友貿易(大連保税区)有限公司	5.0	8.4	2.2	0.5	–
東南アジア	TECHNO ASSOCIE SINGAPORE PTE.LTD.	11.4	30.2	2.6	–	33.6
	TECHNO ASSOCIE VIETNAM CO., LTD.	13.5	26.6	15.7	0.0	2.0
	TECHNO ASSOCIE (THAILAND) CO., LTD.	13.9	28.8	22.9	0.03	0.0
	＊ TA AUTOMOTIVE PARTS (THAILAND) CO., LTD.	429.5	892.9	12.2	375.0	2,705.1
北米	T.A. AMERICA CORPORATION	123.7	349.4	23.6	732.4	678.0
	TECHNO ASSOCIE DE MEXICO, S.A. DE C.V.	530.0	1,443.8	63.1	133.3	2,644.0
欧州	TECHNO ASSOCIE CZECH s.r.o.	22.9	31.7	4.1	–	59.1
	TECHNO ASSOCIE EUROPE GmbH	0.0	–	3.2	–	–
合計		7,423.2	13,463.6	223.8	1,502.8	21,118.8

※「-」はデータ未収集です。
※ ＊ 製造拠点

2024年度の実績

当社は、事業活動に伴う環境負荷を低減していくために、毎年度環境目標を決定し、目標達成のための実施計画を策定し活動しています。品質・環境管理部では、主にLED照明や低燃費車等の省エネルギー設備の導入について取り組んでいます。また各事業拠点では、不要時の消灯やエアコンの適切な温度管理の徹底などの節電や廃棄物分別状況の定期パトロールおよび拠点周辺の美化清掃活動などに取り組んでいます。

当社は、2030年度のCO_2排出量について2013年度比46%削減することを目標としています。2024年度のCO_2排出量は、832トンとなり、2013年度比で1,108トン減（57.1%減）となりました。今後事業規模拡大によるエネルギー使用量の増加が見込まれることから、引き続き省エネルギー活動に取り組んでいきます。また、廃棄物削減への取り組みは、分別徹底によるリサイクル化の推進として最終埋立て率の低減を目標として活動しています。2024年度は、最終埋立て率1.0%以下の目標に対し、1.2%（前年度比0.1ポイント増）と目標未達となりましたが、最終埋立て量そのものは2023年度から0.5トン削減しました。

また、当社で海外拠点の環境負荷データについて集計を行っており、将来的には当社グループ全体での環境目標の設定および環境負荷低減活動に取り組んでいく予定です。

2025年度の目標

2025年度も、引き続きCO_2排出量削減、廃棄物リサイクル化の推進、環境配慮型製品・部品の販売拡大を主要な活動テーマとして取り組みます。地球温暖化防止のためのCO_2排出量の削減は、今年度は原単位1.74t/億円以下を目標として活動しますが、中長期目標としては、我が国のカーボンニュートラル実現のために日本政府が掲げた目標（2030年度のCO_2排出量2013年度比46%削減）を目指していきます。

また、廃棄物については、分別の徹底や処理委託業者の見直しによるリサイクル化の推進に取り組み、最終埋立て率1.0%以下を目指します。

低減活動実績

■ CO_2排出量の削減

当社では電気とガソリン使用によるCO_2排出が全排出量の約96%を占めています。そのため、電気とガソリンに絞って削減活動に取り組んでいます。2024年度は、CO_2排出量を売上1億円当り2.05t以下の原単位を目標値とし、電力およびガソリン使用量の削減に積極的に取り組んだ結果、排出量は832トン(前年度比33.1%減)、原単位では1.39t/億円となりました。

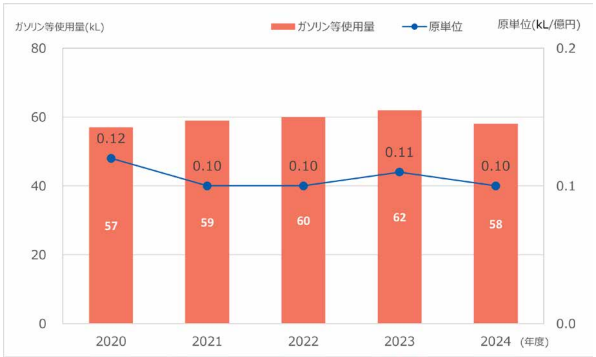
■ 電気使用量の削減

当社では、休憩時間の消灯、エアコン設定温度の管理や業務効率向上による残業削減やノー残業デー実施などの省エネ活動に取り組んでいます。

2024年度は、電気使用量の前年度比2.0%削減を目標として掲げましたが、前年度とほぼ横ばいの2,821MWh（14MWh増加、前年度比 0.5%増）となりました。原単位は4.73MWh/億円となりました。

■ ガソリン・軽油使用量の削減

2009年に237台保有していた営業車ですが、余剰車の見直しや社有車の共有化、またレンタカーやカーシェアの利用、交通機関利用の促進などに取り組み、2025年3月には110台と半減以下となりました。ガソリン等使用量も58kLと前年度比6.5%減少しました。保有台数に占めるエコ基準（2020年度燃費基準達成車）適合車比率は2025年3月には98.1%となりました。



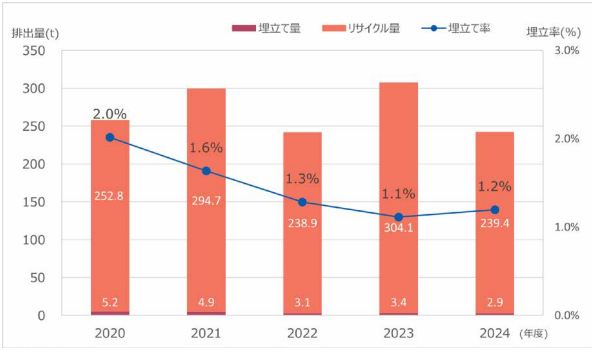
■ コピー用紙の削減

コピー用紙の裏面使用や会議でのプロジェクター活用によるペーパーレス化を進め、コピー用紙の使用量削減に努め、2024年度の帳票類を含めた紙使用量は28.4トン（前年度比6.9%減少）で、そのうちコピー用紙は22.9トン（前年度比6.5%減少）となりました。

■ 廃棄物削減とリサイクル

当社では、事務所での紙類の分別徹底や倉庫での梱包用資材の再使用、通い箱の利用などに取り組み、廃棄物の削減に努めています。2024年度は廃棄物の総排出量は242.3トン（前年度比21.2%減少）となりました。

さらに、産業廃棄物の処分業者をよりリサイクル率の高い業者への変更を検討するなど、最終埋立て処分率の削減にも取り組んでいます。2024年度は最終埋立て率の目標を1.0%以下としましたが、実績は1.2%となり目標未達となりました。最終埋立て量自体は2.9トンと昨年度比15.3%減少となりました。

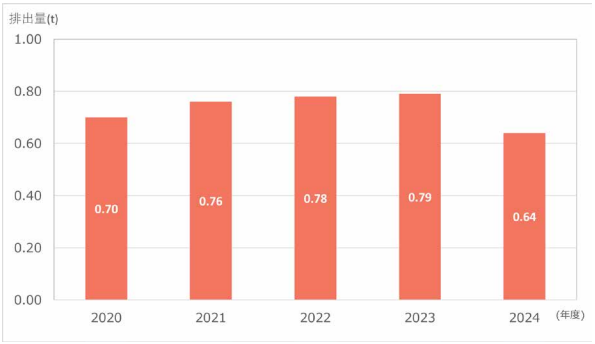


■ 化学物質の管理・削減

当社の子会社のうち、トーブツテクノ（株）常吉事業所では、ねじの緩み止め加工に、PRTR※の管理対象物質であるトルエン等を使用しています。そのため、大気汚染対策として活性炭式フィルター装置を導入し、大気への排出量削減に努めています。

2024年度はトルエン等の排出量は、0.64トン(前年度比19.0%減少)となりました。

※PRTR：化学物質排出移動量届出（PRTR）制度。政令で指定された515種類の化学物質を一定量以上取り扱う事業者に、排出量・移動量を届け出ることを義務付けている。



■ スコープ3のCO_2排出

地球環境保全への取り組みを経営の最重要課題とする当社では、低炭素社会の実現のため、自社から排出されるスコープ1、2のCO_2排出量だけでなく、サプライチェーン全体を通じた排出量の把握を行っています。
2024年度のCO_2総排出量は、367,910 t-CO_2でした。（スコープ3はテクノアソシエのみ算定）

内訳は、
スコープ1・・・168 t-CO_2
スコープ2・・・664 t-CO_2
スコープ3・・・367,078 t-CO_2

であり、スコープ3がCO_2排出量に非常に大きく影響、なかでもカテゴリー1（購入した製品・サービス 97.9%）が大部分を占めることを認識しました。
引き続き、算出方法、データ抽出方法の見直しを行い、精度を高めていきます。

カテゴリー		CO_2排出量（t）	比率	算定方法（算定しない場合はその理由）
自社排出				
	スコープ1（直接排出）	168	0.05%	
	スコープ2（エネルギー起源の間接排出）	664	0.18%	
スコープ3（その他の間接排出）				
1	購入した製品・サービス	360,239	97.92%	排出量＝購入した物品のCO_2排出量＝購入した製品の金額×排出原単位 ※「産業連関表ベースの排出原単位」を基に区分されている製品毎に算出
2	資本財	1,779	0.48%	排出量＝有形固定資産の取得による支出額×排出原単位 ※排出原単位は、「資本財の価格当たり排出原単位」を使用
3	スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	100	0.03%	排出量＝電気の年間使用量×排出原単位 ※排出原単位は、「電気・熱使用量あたり排出原単位」を使用
4	輸送、配送（上流）	4,381	1.19%	排出量＝外部支払の物流費（配送運賃、倉庫保管、業務委託）×排出原単位 ※「産業連関表ベースの排出原単位」を基に算出
5	事業から出る廃棄物	57	0.02%	排出量＝廃棄物排出量×排出原単位 ※排出原単位は、「廃棄物種類別排出原単位」を使用
6	出張	357	0.10%	排出量＝出張交通費支給額（移動手段別）×排出原単位 ※排出原単位は「交通区分別交通費支給額当たり排出原単位」を使用
7	雇用者の通勤	165	0.04%	排出量＝通勤交通費支給額（移動手段別）×排出原単位 ※排出原単位は「交通区分別交通費支給額当たり排出原単位」を使用
8	リース資産（上流）	0	0.00%	算定していない：リース資産（営業車、PC等）はスコープ1排出量として計算
9	輸送、配送（下流）	0	0.00%	算定していない：当社倉庫の活動はスコープ1排出量として計算。外部倉庫への委託は今後算定方法を検討
10	販売した製品の加工	0	0.00%	算定していない：当社が影響を及ぼせないと判断
11	販売した製品の使用	0	0.00%	算定していない：販売した製品の殆どが加工・組立される（カテゴリー10該当）ため
12	販売した製品の廃棄	0	0.00%	算定していない：販売した製品の廃棄は、当社返却により廃棄となる場合はカテゴリー5で算定。加工後、耐用年数経過による廃棄は影響を及ぼせないことから算定対象外としております。
13	リース資産（下流）	0	0.00%	算定していない：非該当
14	フランチャイズ	0	0.00%	算定していない：非該当
15	投資	0	0.00%	算定していない：非該当
	その他			